

2025 年度秋季大会 開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2025 年 11 月 22 日（土）・23 日（日）

会場：富山国際会議場（富山県富山市）

公益社団法人「日本語教育学会」では、最新の研究と実践の成果を発信・共有し、参加者間の交流およびネットワーキングの促進を目的とした大会を年 2 回（春・秋）開催しています。コロナ禍を経て、2023 年度より春季大会はオンラインで、秋季大会は対面で開催しております。2025 年度秋季大会は、富山国際会議場での対面開催となりました。

本大会では、有料イベントへの事前参加登録者数は 859 名（招待・関係者含む）で、43 都道府県および世界の 5 つの国・地域からの参加がありました。大会期間中は、パネルセッション 7 件、口頭発表 44 件、ポスター発表 46 件が、審査・運営協力員の協力のもと行われました。詳細は、学会ウェブサイト（<https://www.nkg.or.jp>）に掲載の大会プログラムおよび発表要旨をご参照ください。なお、大会予稿集についても、大会終了 2 週間後より同ウェブサイトにて無料公開しております。

大会 1 日目の午前中は、社会啓発委員会の企画による一般公開プログラム「共生社会と日本語教育 ―何のために日本語教育はあるべきか―」が開催され、日本の人口動向、外国人集住都市である浜松での取り組み、そして当事者の経験を手がかりに、これからの共生社会における日本語教育の役割についての議論が行われました。午後は、日本語教育を学ぶ学生や研究活動を始めたばかりの方々の大会参加をサポートする「わかばさんいらっしゃい（チャレンジ支援委員会主催）」、7 つのパネルセッション、「交流ひろば（支部活動委員会主催）」も開催されました。1 日目の最後には「交流会」を開催し、学会員同士の交流の場を提供しました。



続く 2 日目は、午前・午後と口頭発表およびポスター発表が行われました。発表の合間の時間帯には、企画「2026 年度以降、日本語教育学会の運営はどう変わる？ ―第 3 次中期計画策定の現状と今後―」のほか、調査研究推進セミナー「地域社会における調査研究をどのように行うか（調査研究推進委員会主催）」、「日本語教育グローバル人材奨励プログラム説明会（国際連携委員会主催）」が実施されました。賛助団体会員出展ブースには両日とも参加者が集い、研究や実践に関する情報収集が盛んに行われていました。なお、2023 年度秋季大会より、若手会員を中心とする大会サポーターによる大会運営協力も始まっております。



次回、2026 年度春季大会は、2026 年 5 月 23 日（土）・24 日（日）にオンラインで開催される予定です。（文責：大会委員会）